

ここらで一つ方向転換してみても

昨日、後期最初の生徒集会がリモートで行われました。執行部や専門委員長が後期の方針や見通しを説明し、全校生徒に承認を求めました。前期の実績の上に、後期ならではの新しい取り組みが展開されることを大いに期待します。

そんな中で、私が特に注目したいのは学習委員会です。そろそろ、これまでとは違う委員会の方向を確立させてほしいと願っています。

授業の質を向上させることは、生徒だけ力で実現できるものではありません。なぜなら、授業については、生徒以上に、私たち教師サイドの問題が非常に大きいからです。

そのために私たちは、常に研究を心がけています。研究授業は、教師の授業の進め方や指導方法が効果的だったかどうかを確かめるために行います。研究を積み重ねても、なかなか満足いく授業というのはいきなりできません。そうだからこそ、私たち教師は常に学び続けています。

以前も書きましたが、「全員」という言葉を掲げて授業を向上させることには無理があります。発言したくても、話すことが苦手な苦しい生徒はいるでしょうし、何らか事情で授業に集中できない仲間もいるはずです。皆が同じではありません。

その状況で、挙手発言や反応において「全員」を達成することは、「形」だけを作ることになるのではないのでしょうか。生徒たちの力で授業の向上に向けて取り組むのはよいことですが、何をものさしとして「全員」を達成するかを、慎重に考えなければなりません。

私は、授業の向上にもつながる「学習意欲の向上」をもって「全員」を達成すべきだと考えます。「学習に向かう姿勢」授業に向かう姿勢」ではありません。「わかるようになりたい」「できるようになりたい」と本気で思うのなら、家庭学習に時間と手間を割くべきです。それをしないで成績を気にするのは、本末転倒です。

要するに、家庭学習を充実させた上で授業に臨むことです。家庭学習なら、挙手発言や反応とは関係がありません。家庭学習が充実する生徒には、力がついていくでしょう。力がつけば授業においても自信が生まれ、挙手発言や反応にも積極性が出てくるかもしれません。

「学習意欲の向上」に向けた斬新な取り組みを全校的に進めていくことを、学習委員会の新しい方向にしてはいかがでしょうか。全員でつくる授業を「形」に求めるのではなく、「学習意欲」に求めると考えてもよいでしょう。自主学习ノートがどのようなように有効活用されているかの交流会、家庭学習が充実している仲間の時間の使い方調査、成績が伸びた仲間が教えるSPTの紹介、先輩が伝授する教科の学習法など、考えれば活動はいくらでもあります。ここらで一つ方向転換してみてもいいかがでしょうか。（十月二十日 記）